

『海のトリビア』

農学部教授 多田 邦尚

私たちは『海に四方を囲まれた海洋国日本』などと言っていますが、いったい、どれくらい海のことを知っているのでしょうか？欧米では、小中学生の教科書に海の環境や生物のことが紹介されていますが、実は日本では私たちが海について学ぶ機会はほとんどないのが現状です。私が所属している日本海洋学会では、海を専門に研究している学会員が、日本の子供たちの授業や家族の会話の中で、海につながるような広がりのある楽しい学びの可能性を追求するために、学校の先生や保護者にそのキッカケを提供する目的で、この『海のトリビア』を発行しました。本のタイトルは、ご想像どおりで、某放送局の人気番組『トリビアの泉』をもじったものです。

昨年の暮れ、全海洋学会員にこの本のためのネタ(トリビア)が募集されました。私は研究室のゼミで「おもしろいトリビアを考えてみなさい！今こそ、香大農学部・海洋環境学研究室の名を世に知らしめる時や！」とゲキを飛ばしました。しかし、そこは、一本切れた様な連中の集まりである私の研究室の学生のこと、すごい(あやしい?)ネタばかりを二十ぐらい並べ、私の知らないうちに応募してしまいました。そのうちの五つが採用され、原稿執筆の依頼が来た時、初めてその内

容を知りました。私自身は、もっと研究室の研究内容に近い話題を考えていたのですが…。「君たちこんな内容でちゃんと原稿書けるの?」「インターネットで調べたらわかるんじゃないですか?」「いい加減なことを言っちゃいかん!著作権の問題もあるし、素人が原稿書く訳じゃないんだから。」「えっ、そんなに大変なことなんですか?」…。その後の騒動はご想像にお任せします。今回は、学生もよくやってくれましたが、私自身、本当によく勉強させられました。それと持つべきものは友人で、最後には沖縄の「ちゅら海水族館」の方にも原稿のチェックをお願いし、やっと原稿ができました。正直、今回の執筆について考えさせられることも多々あります。「大学の先生がここまでやるべきか?」でも、私は一本切れたような研究室の専攻生たちが大好きです。海を研究する者として、皆さんが少しでも海に興味を持ってくれるように願ってやみません。

『海のトリビア』には、50のトリビアが掲載されています。「鳥のウンチでできた国がある」、「海水には金が溶けている」、「氷山は真水からできている」等。是非一度、読んでみてください。

